

安全データシート

作成日 2006年 1月 11日

改訂日 2024年 4月 1日

1. 化学品及び会社情報

製品名	エアダスター
品番	0C-802 / 0C-802-2P
コード	68-846 / 68-847
会社名	プラス株式会社
住所	〒105-0001 東京都港区虎ノ門4-1-28虎ノ門タワーズオフィス12F
担当部門	CSR本部 品質保証部
緊急連絡電話番号	03-5860-8005
FAX番号	03-5860-8013
E-mail	env_psc@plus.co.jp
整理番号	G06D0115
推奨用途及び 使用上の制限	キーボードやパソコン背面等のホコリ吹き用

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性

可燃性エアゾール : 区分1

健康に対する有害性

特定標的臓器毒性（単回ばく露） : 区分3（麻酔作用）

環境に対する有害性

区分に該当しない、または分類できない

ラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語

危険

危険有害性情報

極めて可燃性の高いエアゾール

高圧ガス：熱すると破裂するおそれ

眠気及びめまいのおそれ

注意書き

【安全対策】

熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。

裸火または他の着火源に噴霧しないこと。

加圧容器：使用後を含め、穴を開けたり燃やしたりしないこと。

ガスの吸入を避けること。

屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。

【応急措置】

吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

気分が悪いときは医師に連絡すること。

漏えいした場合、着火源を除去すること。

漏洩ガス火災の場合：漏洩が安全に停止されない限り消火しないこと。

【保管】

日光から遮断し、40℃以下の換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。

施錠して保管すること。

【廃棄】

内容物／容器を廃掃法などの法規制に従って廃棄すること。

3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区分：混合物

成分及び含有量

成分名	CAS No.	含有量 (wt%)	官報公示整理番号	PRTR 法
ジメチルエーテル (DME)	115-10-6	90-99.9	2-360	-
二酸化炭素	124-38-9	0.1-10	1-169	-

4. 応急処置

吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

気分が悪いときは医師に連絡すること。

皮膚に付着した場合：製品の形状から常温・常圧ではガスなので、通常の使用において該当しないと考えられる。

液体で接触した場合は石けんと水で洗い流すこと。

刺激が続く場合には医師の診察/手当てを受けること。

眼に入った場合：液体に接触した場合は水で洗うこと。

眼の刺激が続く場合は医師の診察/手当てを受けること。

飲み込んだ場合：常温・常圧ではガスなので、通常の使用において該当しないと考えられる。

急性症状及び遅発性症状の：眠気又はめまいのおそれ。頭痛。吐き気、嘔吐。

最も重要な徴候症状

応急措置をする物の保護に：医療スタッフに物質が何であるかを伝え、自身の防保護措置にも

必要な注意事項 注意喚起する。

医師に対する特別な注意事項：一般的な処置及び症状にあわせた適切な治療を施すこと

被災者の観察を続けること。症状は遅れて現れてくることがある。

5. 火災時の措置

適切な消火剤：霧状水、泡消火剤、粉末消火剤、二酸化炭素 (CO₂)

使ってはならない消火剤：データなし

特有の危険有害性：蒸気は、空気と混合し、爆発性混合物を生成することがある。

蒸気は発火点までかなりの距離を移動し、フラッシュバックすることがある。

特有の消火方法	<p>火災の際は健康に有害なガスが生成することがある。</p> <p>: 火災や爆発の場合、ヒュームを吸入してはならない。</p> <p>漏えいが安全に停止されない限り消火しないこと。</p> <p>安全に対処できるならば着火源を除去すること。</p> <p>危険でなければ火災区域から容器を移動する。</p> <p>容器に発火するおそれがある。</p> <p>加熱により容器が破裂するおそれがある。</p> <p>破裂したボンベが飛翔するおそれがある。</p> <p>容易に着火し、火災は見え難いので注意が必要である。</p>
消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置	<p>: 火災の際は自給式呼吸器及び全身保護衣を着用すること。</p>
一般的な火災の危険性	<p>: 極めて可燃性の高いガス。内容物は加圧下に置くこと。</p> <p>容器は熱や炎に暴露すると破裂する恐れがある。</p>
特定の消火方法	<p>: 通常の消火手順を用いること。</p> <p>影響を受けた他の物質の有害性を考慮すること。</p> <p>火災にさらされた容器は消火が完了した後もしばらく水で冷却すること。</p>

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、 保護具及び緊急措置	<p>: 関係者以外の立ち入りを禁止する。</p> <p>流出/漏洩箇所から関係者以外を遠ざけ、風上に避難させること。</p> <p>全ての着火源(近くにあるタバコ、炎、火花、火)を除去すること。</p> <p>低い場所に保管してはならない。多くのガスは空気より重いため地面に沿って広がり低い場所または狭い区域(下水道、地下室、タンク等)に集まる。</p> <p>清掃中は適切な保護具及び防護服を着用すること。</p> <p>ガスの吸入を避けること。</p> <p>緊急時要員には自給式呼吸装置が必要である。</p> <p>適切な保護衣を着用せずに、壊れた容器または流出物に触らないこと。</p> <p>閉鎖された場所に入るときは事前に換気を行う。</p> <p>流出が著しくて回収できない場合は、地方自治体に連絡すること。</p> <p>個人用保護具については、本SDSの項目8を参照のこと。</p>
環境に対する注意事項	<p>: 安全を確認してから、漏洩・流出を止める。</p> <p>下水や水路、地面に排出しないこと。</p>
封じ込め及び浄化方法・基材	<p>: 危険でなければ、漏れを止める。</p> <p>もし可能であれば、液体よりむしろガスを逃がすようにすること。</p> <p>水を噴霧し、蒸気を減少させるか蒸気雲の流れの向きを変えること。</p> <p>ガスが分散されるまで、その場所を隔離すること。</p> <p>全ての着火源(近くにあるタバコ、炎、火花、火)を除去すること。</p> <p>可燃性物質(木材、紙、油など)を流出物から遠ざけること。</p> <p>廃棄物の廃棄方法については、本SDSの項目13を参照のこと。</p>

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

- 技術的対策 : データなし
- 局所排気・全体換気 : データなし
- 安全取扱注意事項 : 1回の噴射は1~2秒に区切り連続噴射はしない。
 連続噴射すると容器の温度が急激に低下することがある。
 容器を逆さに向けて連続噴射はしない。
 噴射口より10cm以上離す。
 人体に使用しない。
 空気と混合して爆発性ガスとなりやすいので、ガス漏れには厳重に注意すると共に、火花（静電気火花）、火気、アークを発生するもの、高温物体、強酸剤との接近を避ける。
 通電中の製品機器類には使用しない。
 閉め切った部屋で大量に使用しない。
 人体に害があるのでガスを吸い込まないように注意する。
 大量にガスを吸引すると酸欠により窒息死に至る可能性がある。
 一度に大量に使用しない。
 噴射したガスは空気より重く滞留しやすいため、機器内部に使用した場合は、内部に溜まっているガスを完全に放出してから電源を入れること。
 静電気や火花等でガスに引火し、爆発する恐れがある。
 特にシュレッダー等の気密性が高い機器には危険。絶対に使用しない。

保管

- 技術的対策 : データなし
- 保管上の注意 : 容器は立てて保管する。
 容器は直射日光を避け、低温で換気の良い場所に保管する。
 容器は乾燥した場所に保管し、湿気や水滴等による腐食を防止する。
 容器は、常に温度を40℃以下に保つ。
 容器は、転倒等による衝撃及びバルブの損傷を防止する措置を講ずる。
 熱、火花、炎が近くにないこと。
 幼児の手の届かないところに保管する。
- 安全な容器包装材料 : 高圧ガス保安法で規定されている容器を使用する。

8. 暴露防止及び保護措置

- 管理濃度 : 設定されていない
- 許容濃度
- ジメチルエーテル（DME） : 設定されていない
- 二酸化炭素 : 日本産業衛生学会(2019年版) : 5,000 ppm
 ACGIH(2019年版) TLV-TWA : 5,000 ppm TLV-STEL : 30,000 ppm
 NIOSH(米国国立労働安全衛生研究所) IDLH : 40,000 ppm(脱出限界許容濃度)
 ※TWA(Time Weighted Average) : 通常8時間労働又は40時間週労働にわたって

時間平均値を求めた許容し得るばく露濃度。

※STEL (Short Term Exposure Limit) ; 労働者が短時間の間に連続的にばく露した時、刺激や慢性又は不可逆的な臓器障害を受けずにすむ濃度。

(一般的には15分間)

※IDLH (Immediately Dangerous to Life and Health) ; 主として人のデータを元に、30分以内に脱出不能な状態、あるいは、不可逆的な健康障害をきたすことなく脱出できる限界濃度として、NIOSHとOSHAが提案している値。

この濃度を越す場合は完全な呼吸用保護具を使用する。

ばく露限界値	: 含有成分に関して暴露限界は設定されていない。
設備対策	: 設備、換気扇の電気設備には、防爆構造のものを用いる。
保護具	
呼吸器用保護具	: 有機ガス用防毒マスク
手の保護具	: 保温用手袋を着用すること。
眼、顔面の保護具	: 保護眼鏡(ゴーグル、保護面)
皮膚及び身体の保護具	: 作業衣、安全帽(ヘルメット)、安全靴/ゴム長靴、ゴム前掛け
衛生対策	: データなし

9. 物理的及び化学的性質

物理的態	: ガス状、液化ガス
色	: 無色
臭い	: やや甘味臭 (ジメチルエーテル) 水と作用して弱い酸味と刺激臭を有する (二酸化炭素)
融点、凝固点	: -141.5°C (ジメチルエーテル) -56.6°C (三重点) (二酸化炭素)
沸点、初留点及び沸騰範囲	: -24.8°C (ジメチルエーテル) -78.5°C (昇華点) (二酸化炭素)
可燃性	: 可燃性ガス (ジメチルエーテル)
データなし (二酸化炭素)	
爆発下限界及び上限界、	: データなし
可燃限界	
引火点	: -41.1°C (密閉式) (ジメチルエーテル) データなし (二酸化炭素)
自然発火点	: 350°C (ジメチルエーテル) データなし (二酸化炭素)
分解温度	: データなし (ジメチルエーテル) 2000°Cで約2%が一酸化炭素に分解される (二酸化炭素)
pH	: データなし (ジメチルエーテル) 3.7 (25°C 0.1013MPa、飽和水) (二酸化炭素)
動粘性率	: データなし
溶解度 (水)	: 7.0g/l (18°C) 35wt% (24°C、5気圧) (ジメチルエーテル)

	0.878L/L 水 (20°C、0.1013MPa) (二酸化炭素)
n-オクタノール、	: 0.2 (ジメチルエーテル)
水分配係数	log Pow 0.83 (二酸化炭素)
蒸気圧	: 1930mmHg (257kPa) (0°C)、3800mmHg (507kPa) (20.8°C) (ジメチルエーテル) 1.967MPa abs (-20°C)、5.733MPa abs (20°C) (二酸化炭素)
密度	: データなし
相対密度	: データなし
相対ガス密度	: 1.59 (空気=1) (ジメチルエーテル) 1.53 (0°C、0.1013MPa、空気=1) (二酸化炭素)
粒子特性	: データなし
燃焼範囲	: 上限 27.0vol%、下限 3.4vol% (ジメチルエーテル) データなし (二酸化炭素)
比重	: 0.67 (20°C 液体) (ジメチルエーテル) データなし (二酸化炭素)
爆発性状	: 爆発物ではない
燃焼熱	: 7.55kcal/g (31.584kJ/g) (ジメチルエーテル) データなし (二酸化炭素)
蒸発熱	: 111.64cal/g (467.33J/g) (ジメチルエーテル) データなし (二酸化炭素)

10. 安定性及び反応性

反応性	: 本製品は、通常の使用、保管及び輸送条件では安定である。
化学的安定性	: 通常状態で安定。
危険有害反応可能性	: 一般的な使用条件下では、危険な反応は知られていない。
避けるべき条件	: 加熱、スパーク、裸火、その他の発火源を避けること。 分解温度を超える温度を避けること。 引火点を超える温度を避けること。 混触危険物質との接触。
混触危険物質	: 強酸化剤
危険有害な分解生成物	: 通常 (使用、保管) 条件での分解はない。

11. 有害性情報

ジメチルエーテル	
急性毒性 (吸入)	: ラットLC50 308 mg/l
皮膚腐食性・刺激性	: データなし
眼に対する重篤な 損傷性・眼刺激性	: データなし
呼吸器感受性	: データなし
皮膚感受性	: データなし
生殖細胞変異原性	: データなし

発がん性	: データなし
生殖毒性	: データなし
特定標的臓器毒性	
単回ばく露	: 眠気又はめまいのおそれ
反復ばく露	: データなし
誤えん有害性	: データなし
二酸化炭素	
急性毒性	: 空気中の二酸化炭素濃度により、人体に次のような影響を及ぼす。
	二酸化炭素濃度 (%)
	0.04 : 正常空気
	0.5 : 長期安全限界 (TLV-TWA)
	1.5 : 作業性及び基礎的生理機能に影響を及ぼさずに長時間にわたって耐えることができるが、カルシウム・リン代謝に影響の出る場合がある。
	2.0 : 呼吸が深くなる: 1回の呼吸量が30%増加
	3.0 : 作業性低下: 生理機能の変化が体重、血圧、心拍数などの変化として現れる。
	4.0 : 呼吸がさらに深くなる。呼吸数が増加して、軽度のあえぎ状態になる。 相当な不快感。
	5.0 : 呼吸が極度に困難になる。重度のあえぎ。多くの人がほとんど耐えられない状態になる。吐き気の出現する場合がある。 30分の暴露で中毒症状。
	7~9 : 許容限界: 激しいあえぎ: 約15分で意識不明。
	10~11 : 調整機能不能: 約10分で意識不明
	15~20 : さらに重い症状を示す。1時間では致命的ではない。
	25~30 : 呼吸低下: 血圧低下: 昏睡: 反射能力喪失: 麻痺: 数時間後に死に至る。
皮膚腐食性・刺激性	: データなし
眼に対する重篤な損傷性・眼刺激性	: データなし
呼吸器感受性	: データなし
皮膚感受性	: データなし
生殖細胞変異原性	: データなし
発がん性	: データなし
生殖毒性	: データなし
特定標的臓器毒性	
単回ばく露	: 区分3 (麻酔作用)
反復ばく露	: データなし
誤えん有害性	: データなし

12. 環境影響情報

生態毒性 : 本製品は環境に有害であるとは分類されていない。しかし、大量の流出により環境に有害な影響を与える可能性を排除するものではない。

残留性・分解性

BOD : 0% / 28days.

TOC : 8% / 28days.

GC : 7% / 28days.

生体蓄積性 : データなし

土壤中の移動性 : データなし

オゾン層への有害性 : データなし

13. 廃棄上の注意

火気のない屋外で、噴射音が完全に消えるまでボタンを押してガスを抜いてから、法規制に従って廃棄する。

廃棄物処理法の許可を受けた業者に処理を委託すること。

もしくは各自治体の分別・廃棄方法に従うこと。

14. 輸送上の注意

国際規制

国連分類 : 2.1 (ジメチルエーテル)

2.2 (二酸化炭素)

国連番号 : UN1033 (ジメチルエーテル)

UN1013 (二酸化炭素)

海洋汚染物質 : 非該当

国内規制

陸上輸送 : 高圧ガス保安法の規制に従う。

海上輸送 : 船舶安全法の規制に従う。

航空輸送 : 航空法の規制に従う。

輸送の特定の安全対策及び条件 : 容器の破損、漏れがないことを確かめ、衝撃、転倒、落下破損のないように積み込み、荷崩れ防止を確実にし、火気、熱気、直射日光に触れさせない。

15. 適用法令

労働安全衛生法 : 施工令別表第1 危険物(可燃性ガス) : ジメチルエーテル
酸素欠乏症防止規則、事務所衛生基準規則 : 二酸化炭素
第57条(名称等を表示すべき有害物) : 非該当
第57条の2(名称等を通知すべき有害物) : 非該当

化学物質管理促進法 : 非該当
(PRTR法)

消防法 : 非該当

航空法 : 施行規則第194条 告示別表 第1、第2(高圧ガス)

高圧ガス保安法 : 第三条(適用除外) 政令関係告示 第四条

船舶安全法 : 危険物船舶輸送及び貯蔵規則（危規則）第3条 告知別表第1、第2
（高圧ガス）

16. その他の情報

記載内容は安全にご使用頂く為の情報提供であって、保証するものではありません。

また、注意事項は通常の取扱を前提としたものなので、これらを参考にし、自らの責任において用途、用法に適した安全対策・適切な処置の実施をお願い致します。

※本書式は、JIS Z7253 : 2019 要求事項に準じて作成しております。